

## テーマ『 循環型社会をめざす環境教育の取り組み 』

座間市立 ひばりが丘小学校

Tel 046-252-1124

担当者 館 光一



### ■実践内容：

ひばりが丘小学校では、平成19年度より座間市から「レッツトライひまわり環境ISO」の認定を受け、学校全体で環境問題に取り組んできた。その主な内容は、①「環境に対する正しい認識を深める学習」②「環境保全のための活動」③「省エネ・省資源・リサイクル活動」④「環境意識向上のための取り組み」である。①の「環境学習」では、理科や社会、家庭科、総合的な学習などを中心に取り組んできた。たとえば、4年生の総合的な学習「私たちの生活から環境を調べよう」(26時間扱い)では、「ゴミや水と環境」の問題を原子分子の目から科学的に理解する学習を通して「燃やすことのムダ、リサイクルすることの大切さ」などに気づくことができた。また、「学校を花いっぱい・緑いっぱいの学校にしよう」という計画の元に、これまで利用されていなかった場所でゴーヤカーテン作りをした。②の「環境保全活動」では、PTAとの共催による「環境整備活動」を行い、校地に花の苗を植えた。また、全学年で学年園にアブラナのタネを蒔き、春には花いっぱいの学校にした。③の「省エネ・省資源・リサイクル活動」では、節電、節水、ゴミの分別を中心に取り組み、特にゴミの分別では、「燃えるゴミ」と「プラスチックゴミ」「資源紙」の分別を徹底した。また、家庭に呼びかけ、ペットボトルキャップとプルトップの回収をし、集めたものはワクチンや車椅子になる団体に寄付した。④の「環境意識向上のための取り組み」では、環境委員会が、節水・節電を呼びかけるポスターや標語を製作し、校内に掲示した。また、資源紙やペットボトルキャップの月ごとの重量を集計した。そして、朝会では「環境問題」や「学校での取り組み」などについて調べたことを発表し、児童への啓発活動をおこなった。

### ■実践成果：

「環境教育」では、「環境」について正しく知ることが大切だということがよく分かった。また、ゴーヤカーテンをした教室は涼しいことが分かり、エネルギーを使わずに自然の力を生かすことの大切さを学ぶことができた。実ったゴーヤはゴーヤチップにして食べた。児童は自分たちが育てたものが環境に役立つ、さらに食べることができたことに喜んでいて、学校全体で「省エネ・省資源・リサイクル活動」に取り組んできた結果、児童や家庭の「環境」に対する意識が向上した。家庭に呼びかけたペットボトルキャップとプルトップの回収も毎月たくさん集まる。また、地域の方が持ってくることもあるなど、その広がりを感じる。環境委員会の果たす役割も大きなものがある。委員一人一人が「環境」のために何をなすべきか何をしたらよいかをよく考え、自分たちで実際に活動し、全校児童に働きかけていくことができた。

### ■実践ポイント：

各教科ごとにばらばらにある環境領域を「環境教育」として結びつけ、一貫したものにしていくことの必要性を感じた。また、環境に対する理解を深める教育を行うことで、児童の活動も質が増し活動意欲も一層高まることが感じられた。今後も環境教育と実践活動を結びつけて展開していくことが大切だと考えている。